

地域で活躍する 高校生

県内の高校生たちは、日々の学習や課外活動で得た知識・技術を生かして、地域に貢献しようと積極的に活動しています。そんな彼らが笑顔で元気に取り組む姿を紹介します。

農業に興味を抱くきっかけづくり 鹿沼南高校

「地元の農産物の良さを知り、農業に関心を持ってほしい」という思いから、小学5年生の児童を招き、米粉ピザ作りの交流授業を行っています。指導に当たるのは、食料生産科で食品製造を学んでいる生徒たちです。



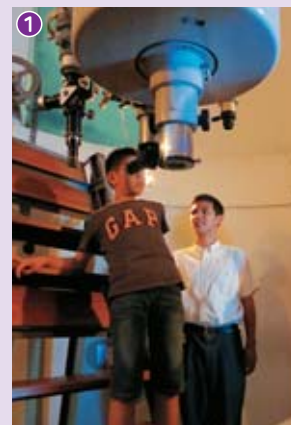
生地には同校で栽培した米の粉、トッピングには地域で生産されたトマトやベーコンなどを使用。児童たちは完成したピザを食べ、そのおいしさを確かめていました。

この体験を通して、地元食材の流通についても考えてくれることでしょう。

- ① 地元で採れた食材をトッピング
- ② 本格的な石窯で焼き上げるのも魅力です



天文の魅力を伝える 國學院大学栃木高校



同校天文部では、地域の人や小中学生を対象に、天体観測会を開催しています。学校の屋上には口径40cmの反射望遠鏡(①)を備えた天文台があり、本格的な観測が可能。高校生に教わりながら自分で望遠鏡を操作することができ、子どもたちにも大人気です。

季節の星座、金星・土星・木星などの惑星や月の観測、プラネタリウムを使った説明(②)を通して、天文のおもしろさを伝えています。



絵本の読み聞かせで小学生を笑顔に 日光明峰高校

月曜の朝、同校の有志生徒は近くの安良沢小学校を訪れ、小学校の朝の活動時間(15～20分程度)に、児童への読み聞かせを行っています。児童は、高校生が来るのをとても楽しみにしています。

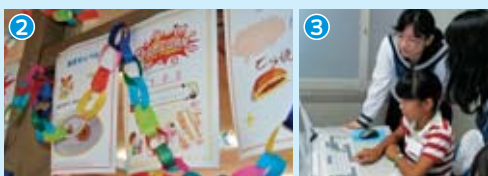
読み聞かせに使うのは、1回につき1～2冊の絵本。生徒自ら本を選び、読み方の練習もしっかりと行いますが、「上手に読む」ことよりも「丁寧に、一生懸命、ふれあいながら読む」ことを大切にしています。

ビジネスの極意を小中学生に伝授 栃木商業高校



① 指導するうちに、すっかり仲良し

初回のマナー実習では、お辞儀の角度や言葉遣いなどを高校生が丁寧に指導。小学生にとっては初めての経験で、「一番難しかった」と話す児童もいました。いよいよ迎えた販売実習では、お弁当やポップコーンなどを買い求める人で長蛇の列ができましたが、小中学生は高校生のサポートを受けながら、忙しくも笑顔でお客さんと接しました。



② 手作りのPOP広告 ③ パソコン作業に苦戦しました ④ 開店前、全員であいさつの練習をして最終チェック



⑤ 小学生の接客を優しく見守る高校生

同校の岩出さんと落合さんは「原価計算など、小中学生のために噛みくだいて説明するのに苦労した」「歳が離れていても、みんなで楽しくできる雰囲気作りを心掛けた。頼りにしてもらえるとうれしかった」と顔をほころばせました。

デイサービスでシニアの方々をおもてなし 矢板高校

5つの専門学科がある同校では、それぞれの得意分野を生かして、地域の高齢者と交流する「矢高デイサービス」を年に数回実施しています。この日は、矢板市シニアクラブから6名を学校へ招き、社会福祉科・農業経営科・栄養食料科の生徒たちがおもてなしをしました。

社会福祉科では、後出しジャンケンゲームや脳トレ体操などのレクリエーションを行い(①)、頭と体を一緒に動かししました。「楽しく一汗かけた。これを毎日やれば長生きできそうだ」とシニアクラブ連合会長の木下さん。

農業経営科では、生徒がシクラメンの手入れの仕方を指南(②)。皆さん「きれいにできた」と満足気でした。



栄養食料科では、この日のために昼食の献立を考え、提供しました(③)。高齢者が食べやすい味付けや硬さ加減にこだわり、同校で収穫した米やりんごを使用して「矢高らしさ」を出すなど、工夫を凝らした献立に皆さん感心。「授業以外でもたくさん作ったけど、今日が一番いい出来だった」という料理を、ほぼ全員が完食していました。

社会福祉科の高野さんは「どうやったら楽しんでもらえるかを一生懸命考えた。笑顔になってもらえてうれしい」と振り返りました。

陶器市をお手伝い 益子芳星高校

益子町は、言わずと知れた「陶器のまち」。同校では、毎年春と秋に開催される「益子陶器市」に多くの生徒がボランティアとして参加しています。県内外から訪れる観光客に陶器市を心ゆくまで楽しんでもらうため、地図を配布したり、手荷物の一時預かり所を手伝ったり、路上のごみを拾ったりと、休む間もありません。また、今年の秋には、茶道部もお茶会を開いて陶器市を盛り上げました。

- ① 笑顔で案内。「ありがとう」が何よりうれしい贈り物
- ② 手荷物預かり所 ③ お茶会の様子

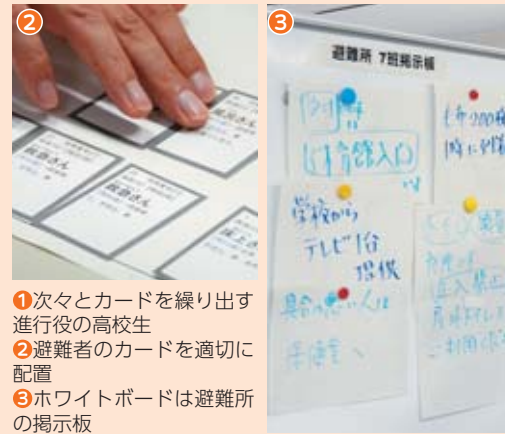


防災について地域のひと考える 学悠館高校

自家発電装置や雨水貯留システムなどの設備があり、地域の防災拠点となっている同校。「学校が避難所になったらどうなるのか」と生徒が疑問を持ったことがきっかけで、JRC部(Junior Red Cross=青少年赤十字の略称。ボランティア活動などを行う)では年に数回、地域のひとと一緒に避難所体験や防災講座を行っています。

今夏は、栃木市の職員も交え、避難所運営時の対応を疑似体験できるHUG(避難所運営ゲーム)を開催しました。年齢や性別、持病など、避難者それぞれの事情が書かれたカードを、避難所となる体育館や教室に見立てた模造紙に配置していくゲーム形式の図上型訓練です。

避難者のカードのほか、「毛布が100枚届きました」「首相が視察に来ます」などの出来事が書かれたカードもあり、対応を考えなくてはなりません。参加者は頭を悩ませながらも、迅速に処理していきました。



物資の分配方法やペットを連れた避難者への対応、宗教上の配慮などの問題は難しく、ゲーム後の意見交換は白熱。一般参加者の川島さんは「避難所運営は、大変な仕事だと実感した。ゲーム形式でも一度経験しておけば、いざというときに役立つと思う」と感想を話していました。

JRC部長の田中さんは「高校生だけで行ったりハーサルの時とは全く違う意見がたくさん出て、とても勉強になった。次は、もっとみんなが積極的に話せるような雰囲気を作りたい」と今後の抱負を語りました。



とちぎ元気通信

とちぎテレビで放送中！
毎週日曜 午前9時～9時30分
毎週火曜 午後7時30分～8時
栃木県のさまざまな取り組みを分かりやすくお伝えする番組です。
12月13日(日)・15日(火)のテーマは「広聴・広報事業」。今回の紙面作りの模様が紹介されます。ぜひ、ご覧ください。

スポーツを教える 小山南高校

県内の公立高校で唯一スポーツ科がある同校では、近隣の小中学生等を対象に「小山南スポーツ学校」を毎年開催しています。サッカーや陸上競技、バスケットボールをはじめ、普段なかなか挑戦できないカヌーやウエイトリフティングなど、種目は多彩です。

生徒たちは自分の得意種目を生かし、指導者として大活躍！今年も、スポーツの楽しさを精一杯伝えました。

- ① ボールを使い準備運動 ② 試合形式でサッカーの指導 ③ プールでカヌー体験

